

# 1 京都府の研究全体構想図

## 大会主題

豊かな心と実践力を育み、未来を拓く家庭科教育

## 研究主題（京都大会）

よりよい生活を創り 未来をともに生き抜く 子供の育成

## 目指す子供像

日常生活に活用できる知識及び技能を身に付けている子供

問題を見いだして課題を設定し、解決方法を考え、考えたことを表現できる子供

家庭や地域に関わりながら、生活をよりよくしようと実践していく子供

## 研究内容

視点  
1

資質・能力を確実に育成する指導計画の工夫

～何を学ぶのか～

- (1) 2学年間を見通した年間指導計画の工夫
- (2) 他教科等の学習、行事等との関連を図った指導計画の工夫
- (3) 小・中学校の連携を意識した指導計画の工夫

視点  
2

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫

～どのように学ぶのか～

- (1) 問題解決的な学習の工夫
- (2) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる学習指導の工夫
- (3) 衣食住などに関する実践的・体験的な活動の工夫
- (4) ねらいを達成するためのICTの効果的な活用

視点  
3

学習評価の工夫

～何が身に付いたのか～

- (1) 資質・能力を具体化した評価の計画
- (2) 学習状況について評価する時期や場面の精選
- (3) 評価方法の工夫・改善

視点  
4

家庭・地域との連携

～家庭・地域とどのようにつながるのか～

- (1) 家庭と連携した実践活動の設定
- (2) 地域人材・地域教材の活用

## 2 研究主題と主題設定の理由

### 研究主題 よりよい生活を創り 未来をともに生き抜く 子供の育成

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会は大きく変容することを求められることになった。このように目まぐるしく変化していく社会においては、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を自分の力で創り出せる人材が、求められている。

その人づくりを担う教育もまた、変わっていく必要がある。多様な価値観と多様な学び方を広げの中で、学校の意義や学ぶことの意義が改めて問われるようになり、超スマート社会やグローバル社会への対応として、AIの力を活用する一方で、想定外の事態に向き合い調整する力や新たな価値を生み出す力を育成することが必要である。また、成年年齢引き下げなどにより、現代社会を生き抜いていくための力や社会の担い手として生きる力を育てていくことは、さらに重要度を増している。

そのために、多様な他者と関わり対話を通じて学び合うという学校の営みを大切にしながら、ICTや先端技術を効果的に活用し、時代の変化に対応していかなければならない。

さらに、子供たちが、生まれ育った環境、障害の有無や程度にかかわらず様々な人と共に学べる環境を整備するとともに、子供たちに自分の存在が認められることや自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感をもたせることが大切である。

そうした実感は、子供たちにとって、人間一人一人の活動が身近な地域や社会生活に影響を与えるという認識につながり、これを積み重ねることにより、地球規模の問題にも関わり、持続可能な社会づくりを担っていこうとする意欲を高めることへつながっていくと考えられる。

今まで気付かなかった様々な問題に直面した時、その課題を解決しようと生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を育成する家庭科の役割は大きいと考える。

これらのことを踏まえ、子供たちがよりよい生活を創り、未来をともに生き抜くために必要な資質・能力を身に付け、家庭科での学びを生かして社会の変容にも主体的に対応して持続可能な社会を築いていけることを願い、本研究主題を設定した。

## 3 目指す子供像について

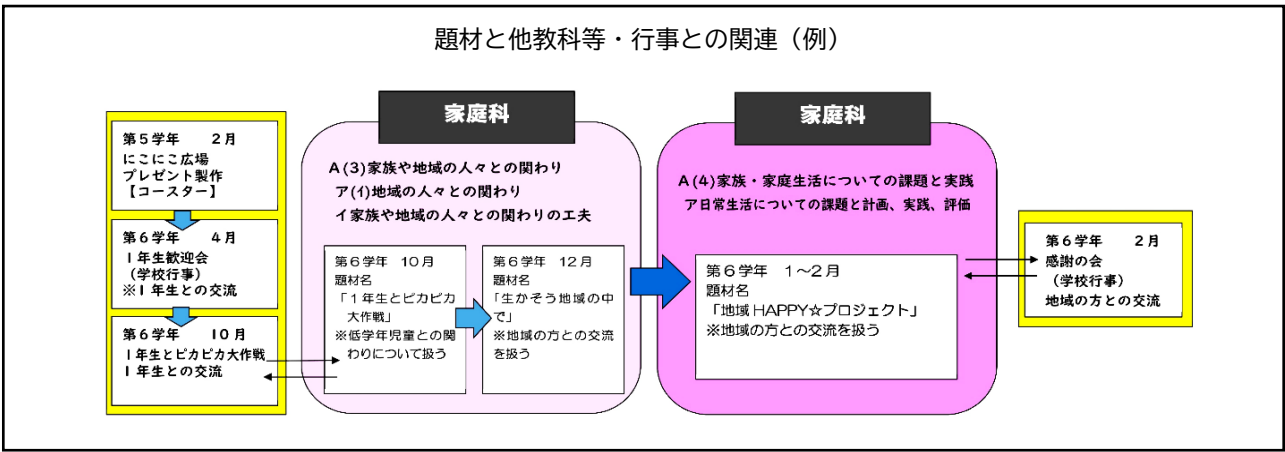
京都府の教育理念として、目指す人間像を「めまぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を作り出せる人」とし、そのために「はぐくみたい力」として、「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」の3つが示されている。

また、児童の実態調査結果からも、家庭科で求められる資質・能力を身に付けさせ、これからの生活で役立てられるようにすること、自分の生活から問題を見いだして課題を設定し、その解決に主体的に向き合うことや、仲間や家族、世代の違う人々と協力、協働しながらよりよい生活を創っていけるようにすることを目指していく必要があると考える。

これら3つの力に照らし、研究主題より次の目指す児童像を設定した。



題材と他教科等・行事との関連（例）



(3) 小・中学校の連携を意識した指導計画の工夫

小学校で身に付けさせたい資質・能力や題材の関連等を明確にし、中学校の技術・家庭科の学習への円滑な接続を図るようにした。

また、題材毎の指導計画については、題材構想図「京のみらいプラン」を中学校と共有し、同じ「学びのプロセス」で学ぶことができるよう、連携を進めた。

視点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習指導の工夫～どのように学ぶのか～

(1) 問題解決的な学習の工夫

主体的・対話的で深い学びの実現のため、問題解決的な学習過程で学びが深まるよう、「学びのプロセス」を分かりやすい言葉で示し、児童と共有できるようにした。

題材毎に、課題を設定する場面と学習を振り返り評価・改善する場面では、児童の主体的な学びの姿を想定し、そのような姿を実現できるよう具体的な手立てを考え、指導を行った。また、課題解決に向けて効果的に対話的な学びができるよう、学習過程のどこで、どのような対話的な活動を設定するのかについて検討し、指導計画に位置付けた。

さらに、京都府全域で、このような問題解決的な学習過程で指導が進められるよう、題材構想図「京のみらいプラン」を作成し、活用した。

京のみらいプラン

## (2) 生活の営みに係る見方・考え方を働かせる学習指導の工夫

深い学びを実現するためには、学習過程の中で児童が生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら課題解決に向けて自分なりに考えたり、表現したりすることで資質・能力を身に付けることができるようにする必要があった。そのため、意見交流を行ったり、調べたことを発表し合ったりする活動の中で生活の営みに係る見方・考え方を働かせながら解決方法を検討したり、改善策を考えたりできるよう、題材毎に主に働かせたい生活の営みに係る見方・考え方を題材構想図「京のみらいプラン」に示し、教員が意識し発問を工夫しながら深い学びにつながるよう指導した。

## (3) 衣食住などに関する実践的・体験的な活動の工夫

調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して、実感を伴った理解ができるよう工夫した。実践的・体験的な活動を題材のどこで行うのか題材構想図「京のみらいプラン」に明記し、マークでも示した。

また、知識及び技能をより確実に身に付けられるよう、重点的に指導する題材で、製作や調理などの実習を2回設定するよう工夫した。

## (4) ねらいを達成するためのICTの効果的な活用

動画や写真、比較場面等の視覚教材を提示することで、日常生活における問題を見だし、課題設定につながるようにした。

1人1台端末を活用し、製作や調理などの作業工程を個々の進度やニーズに合わせて繰り返し視聴することで、児童が主体的に知識及び技能を習得できるようにした。また、製作や調理の様子を撮影し合い、それを視聴することで活動を振り返り、自己評価や改善に生かすことができるようにした。

1人1台端末の活用により、家庭実践を撮影して交流することで、具体的な説明につなげたり、実践の改善に生かしたりすることができた。

### 視点3 学習評価の工夫～何が身に付いたのか～

## (1) 資質・能力を具体化した評価の計画

各題材で育てたい資質・能力を明確にして、学習活動に即した具体的な評価規準を設定した。

京都府では「京のみらいプラン」を作成し、各題材で育てたい資質・能力「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を明らかにしている。また、2学年間の学習を見通した題材配列表から、具体的な指導内容・指導事項を確認し、各題材に応じて重点的に指導・評価する項目を分かりやすく示している。

## (2) 学習状況について評価する時期や場面の精選

学習評価は、児童に「何が身に付いたのか」という学習状況を的確に捉え、教師の指導改善や資質・能力の確実な定着につなげることが大切である。そのためには、様々な学習活動の中から、いつ、どのような方法で評価するのかということを計画する必要がある。計画の中には、同じ内容項目で評価する場面を2回設定し、1回目は「指導に生かす評価」とし、2回目の評価場면을「記録に残す評価」とする等、それぞれの題材で評価する時期や場면을精選して指導と評価の計画を立てることとした。これにより、「指導に生かす評価」の場面で、努力を要する状況と判断される児童への手立てを考え、「記録に残す評価」の時間までに個別支援や指導改善を行い、指導と評価の一体化に向けて取り組んだ。

学習状況について評価する時期や場面の精選

記録に残す評価

ワークシートを通して児童の変容をとらえ、主体的に学習に取り組む態度等の評価につなげる。

指導に生かす評価

努力を要する状況と判断される児童への手立てを考え、指導と評価の一体化に向けて取り組む。

3 指導と評価の計画		評価規準・評価方法			
小題材	時	○ねらい・学習活動	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	1	○物や金銭の大切さについて理解し、身近な物の選び方、買い方について問題を見出し課題を設定することができる。 ・毎日の生活を支えているお金について、自分や家族が何に使っているか考える。	①身近な物の選び方、買方について課題を見出して課題を設定している。 <ワークシート>	①身近な物の選び方、買方について課題を見出して課題を設定している。 <ワークシート>	①物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。 <観察・ワークシート>
	2	○消費者の役割について分かり、物や金銭の計画的な使い方を理解することができる。 ・買物で失敗した経験から、買う前に考えることについて整理する。	②消費者の役割が分かり、物や金銭の計画的な使い方について理解している。 <観察・ワークシート>		②物や金銭の使い方と買物について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返り、改善しようとしている。 <観察・ワークシート>
	3	○買物の仕組みについて理解することができる。 ・契約の成立について理解し、現金や店以外での買物について考える。	③買物の仕組みについて理解している。 <観察・ワークシート>	指導に生かす評価	
2	4	○購入しようとする物の品質や価格などの情報を正しく理解し、適切な物の選び方を工夫する。 ・買物をする際のポイントや工夫したいことを考える。	④身近な物の選び方、買方について、購入するために必要な情報の収集・整理を適切に行っている。 <ワークシート>	⑤身近な物の選び方、買方について考え工夫している。 <観察・ワークシート>	⑤物や金銭の使い方と買物について工夫し、実践しようとしている。 <観察・ワークシート>
	5	○身近な物の選び方、買い方について、実践を評価・改善する。 ・買物名人〇か条を書く。	⑥身近な物の選び方、買方について、実践を評価・改善している。 (観察・ワークシート)		
3	6	○身近な物の選び方、買い方について、購入するために必要な情報の収集・整理をし、考え工夫し、わかりやすく表現する。 ・パフォーマンス課題に取り組む。	⑦身近な物の選び方、買方について、購入するために必要な情報の収集・整理を適切に行っている。 <ワークシート>	⑧身近な物の選び方、買方について考え工夫している。 (観察・ワークシート)	
					⑧身近な物の選び方、買方についての課題解決に向けた一連の活動について、考えたことを分かりやすく表現している。 (観察・ワークシート)

(3) 評価方法の工夫・改善

観点別評価を適切に行うために、指導と評価の計画に基づいたワークシートを作成した。

例えば、「知識・技能」の評価には、確認テストなどを用いている。「思考・判断・表現」の評価には、新たな課題について今までの学びを生かした様々な視点から考えたことを文章に書くことで、児童の達成状況を評価できるように工夫した。また、「主体的に学習に向かう態度」の評価には、ポートフォリオ形式のワークシートを活用した。そこで学習の見通しをもち、学習後のできるようになったことを振り返ることができるように学習前と学習後に同じ項目で自己評価が行える形式にした。これにより児童は、学習前と学習後の自己評価から自分ができるようになったことを自分で実感し、できるようになった自分に自信を付け、今後の生活や学習に向けて意欲的に取り組む様子が見られた。指導者は、ワークシートを通して児童の変容を捉え、調整力や粘り強さ、実践的態度等の評価につなげることができた。

ポートフォリオ形式のワークシート (例) ※三つ折り

The worksheet is a three-fold document. The left side is the cover page with the title '5年 家庭科 生活を支えるお金と物' and a drawing of a piggy bank. The middle section is divided into two columns: '〈学習前〉 月 日' and '〈学習後〉 月 日'. Each column contains a list of learning objectives (e.g., 'I can understand the difference between income and expenses') and checkboxes for self-evaluation. The right side is a continuation of the 'After Learning' section, with a space for students to write about their progress and a section for the teacher to provide feedback.

## 視点4 家庭・地域との連携～家庭・地域とどのようにつながるのか～

### (1) 家庭と連携した実践活動の設定

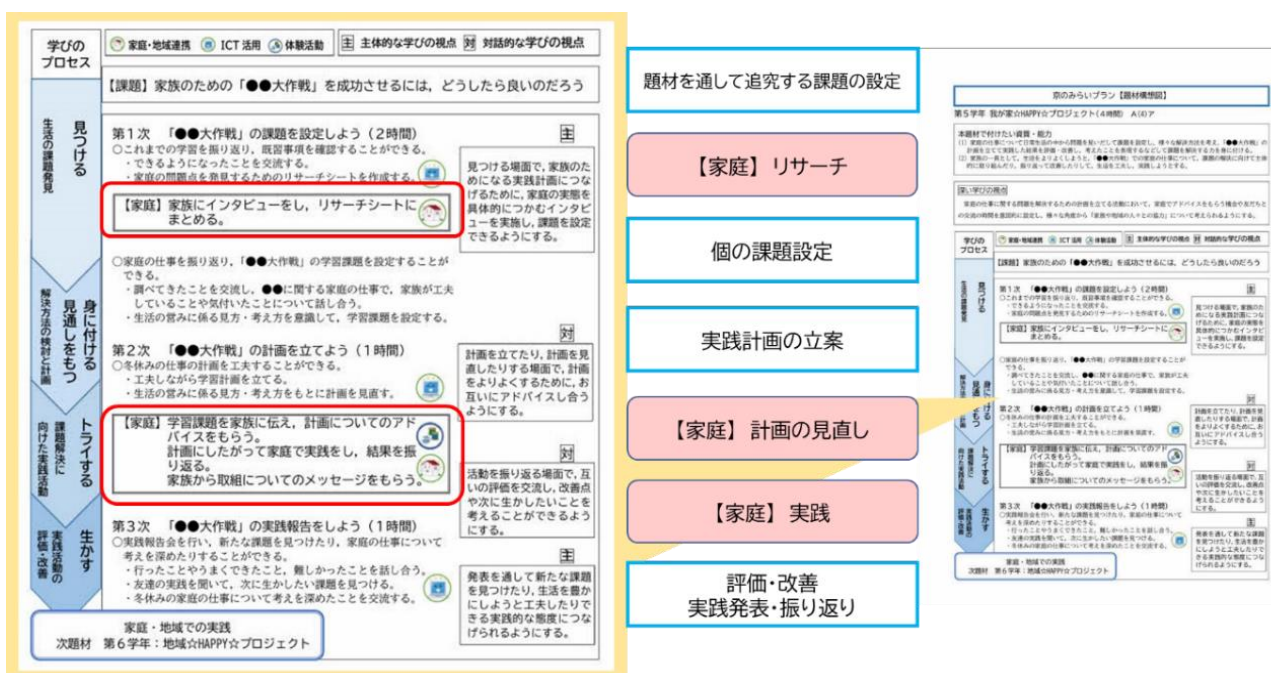
児童アンケートの結果から、「家庭科の学習は好き」「将来役に立つ」と考えている児童が多かったが、家庭の仕事については「いつもしている」と答えた児童が全体の30%以下であり、家庭科での学びを生活に生かしていない現状があった。そこで、家庭科で学習したことを家庭での実践に生かせるよう以下のことを工夫した。

例えば、題材の課題を設定する際、家族の願いを課題設定に生かすために、児童の思いや願いを調査するとともに家族にもアンケート調査を行った。それから、学習のゴールで目指す姿に家族の願いを反映させ、児童と共有することで問題を見いだして課題を設定する題材のスタートから、家庭での実践につながるよう工夫した。なお、課題解決の方法を検討する過程では、家族への聞き取りを行う活動を設定し、家族の協力を得ている。

また、課題解決に向けた実践活動を行う過程では、児童が評価され、認められることで意欲を持続したり、達成感を味わったりできるよう、家族からの励ましや評価のコメントをもらう場面を設定した。さらに、実践活動の評価・改善の過程では、家庭実践について計画を立てる時間を設定し、題材の学習で身に付けた資質・能力を家庭実践に生かすようにし、また、家庭実践が持続できるよう、実践を記録するワークシートやカード等を工夫した。

ほかにも、A(4)「家族・家庭生活についての課題実践」の題材の配列をA(2)「家庭生活と仕事」又はA(3)「家族や地域の人々との関わり」と「B衣食住の生活」、「C消費生活・環境」で学習した内容を生かせるよう、家庭実践を長期休業中等に位置付け、家庭と連携して実践できるよう工夫した。実践計画を立て、実践の振り返りを交流する活動を行い、家族からの評価も交流した。家庭実践が難しい場合は、学校での実践活動を設定した。

さらに、家庭科通信や学年便り等を活用して学習内容を紹介し、発信するとともに、プライバシーに配慮したアンケート調査の結果や、児童の感想、家族からのコメント、家庭実践の様子等を掲載し、家庭と連携して学習を進めた。



題材構想図「京のみらいプラン」に家庭連携を位置付ける

## (2) 地域人材・地域教材の活用

各学校の実態に即して地域の特性を生かしたふろさと学習や食育の取組等を地域人材・地域教材を活用して行った。地域の人々や各市町村の企業等は、学校の取組に大変協力的であり、家庭科の学習でも地域人材・地域教材を活用した学習や活動を行うことができた。

また、地域の企業や府・市町村の消費者生活センター等から講師を招き、それぞれの専門性を生かした指導を連携して行うこともできた。

さらに、総合的な学習の時間や行事等との関連を図った取組に、家庭科で学んだことが生かせる実践活動を設定したことで、地域の人々との交流活動等を行うこともできた。

## 5 成果と課題

### <成果>

- 小学校5・6年の2学年間を見通した指導計画や小中連携を意識した指導計画を作成したことで、ゴールを明確にして指導にあたることができた。
- 問題解決的な学習スタイル「学びのプロセス」を府内全域で共有し、題材構想図「京のみらいプラン」を作成し、題材構想をするための手引きとして活用することができた。
- 1人1台端末を活用することで、児童一人一人が自らの課題と向き合い、解決につなげることができた。
- 評価について、「指導に生かす評価」「記録に残す評価」のように同じ評価場面を2回設定し、「指導に生かす評価」の場面で努力を要する状況と判断される児童への手立てを考え、「記録に残す評価」の時間までに個別支援や指導改善を行うなど、指導と評価の一体化に向けて工夫することができた。
- 題材構想図「京のみらいプラン」で家庭・地域での実践を位置付け、題材の学習で身に付けた資質・能力を家庭実践に生かすように設定した。そこでは、家庭・地域との連携をいつ、どの場面で行うのか、家庭や地域の実態に合わせた計画を作成し、児童が家庭や地域で実践できるように工夫することができた。

### <課題>

- 2学年間を見通した年間指導計画については、今後も指導内容や指導方法を工夫しながら、他教科等の学習や行事等と関連させた指導計画を工夫していく必要がある。
- 1人1台端末を活用し、個別の支援を行う際には、個人差への対応が不可欠である。
- 評価についての信頼性を高めるためにも、今後も評価規準を見直していく必要がある。
- 「知識・技能」だけでなく、「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれの評価場面が適切であったか、さらに検証していく。
- 家庭・地域に関わりながら生活をよりよくするための実践活動について、設定する場面や指導計画での位置付けをさらに工夫していきたい。